

「グローバルキャリアを目指す」 第2部

- 1. 「グローバル化」は終わってしまうか？**
- 2. 「グローバルキャリア」の楽しみは何か？**
- 3. 「グローバル」＝「海外」か？**
- 4. これからの「働き方」はどうなる？**
- 5. 「新常態」の世界にどう備えるか？**
- 6. 自分の思考力・判断力を高めるためには？**
- 7. 受動的アプローチと双方向アプローチ**
- 8. 新しい時代を生き抜くために**

「グローバル化」は終わってしまおうか？

- 「**自国第一主義**」は結局自分を危うくするだけ。

- **オンライン化の進行は、住む場所、働く場所の意味を薄める。**

- **その結果、グローバルな働き方は今後とも一層進む。**

「グローバルキャリア」の楽しみは何か？

- **グローバルな視点を持ち、国境を意識せず働く**
- **簡単ではないが、スケールの大きさ、充実感が格段に違う。**
- **共通言語、共通ツール、共通の使命感**
- **優秀な人材と対等に働ける楽しさ**

「グローバル」 = 「海外」か？

• 「オンライン」は世界とつながいをも強める

国内でも「グローバル」な活躍は必要でありかつ可能となる

また、外国人の上司、部下、取引先との仕事も増える可能性大

「内なるグローバル化」が進む

これからの「働き方」はようになる？

1. 我が国の場合、グローバル化に加え、少子高齢化、デジタル化も進行し、今後の雇用制度・慣行は様変わりとなる。
2. 新卒一括採用、終身雇用、年功序列制、定年制等は、いずれ死語となる。
3. 実力主義・多様性のある世界が「新常态」となる。

(採用時期、職業選択、人生設計等を含め。)

「新常態」の世界にどう備えるか？

- 1. まず、自分の考えを持つ。**
(自分はどのような人間かを知る)
- 2. その前提として多様な情報・意見に触れる。**
(自分のComfort zone から脱する。)
- 3. 自分の将来のための投資を自ら見極め、決断し、挑戦する。**
(会社に頼らず、生涯学習のすすめ。)

自分の思考力・判断力を高めるためには、



読む力 と 聞く力 が求められる。

受動的アプローチ

著者または話し手の
言うことを
そのまま読み・聞く

その場合、
受け手の分析・判断は
不要となる



双方向アブローキ

著者または話し手に対して
質問を投げかけ、思索する。

そのことを通して、
自分の考えを形成し、深める。



新しい時代を生き抜くために

1. 自分の直感に従う勇気を持つ。

“Have the courage to follow your heart and intuition. They somehow already know what you truly want to become. Everything else is secondary.”

Steve Jobs, Stanford University, 2005

2. 「持続可能性」と 「復元力」が重要となる。

(一国経済であっても、個人であっても同じ。)